
たったひとりのあなたへ

海風漣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たったひとりのあなたへ

【Nコード】

N4207V

【作者名】

海風漣

【あらすじ】

虹の橋へ旅立った我が家の猫へ。追悼作品。
たくさんの思い出と笑いを、ありがとう。
これまでもこれからも、ずっといつしよに。

拝啓 虹の橋はとうですか。みんな楽しくやっていますか？

夏がやってきましたね。あなたたちのいない夏です。

この夏も、あなたたちのいた日々をなぞりながら、すごすようです。あなたたちのいない日々は、あなたたちと会う前よりもすこしだけ、物足りないのです。

あなたたちとの日々はあまりにも短く、ときどき、本当にあったのだろうかと、思うときがあるのです。

短くて2か月、長くても2年と少し。

風の又三郎のように足早に去っていったあなたたち。

まだ、現実感さえわかないのです。

何を伝えればいいのかさえわからないから、お手紙差し上げます。伝えたいことが多すぎて、何から伝えればいいのか分からないのです。

それに、わたしは「さよなら」がそう簡単に言えるほど強くありません。

だからさよならのかわりに、お手紙という名のアルバムを、あなたへ。

ずっと憶えていたのです。

P u r r o l o g u e さよならのかわりに（後書き）

これから長くつづつていくことになると思いますが、どうぞお付き
合いよろしく願います。

次で猫たちの簡単なプロフィールを紹介しようと思います。

1 - 1 桃色の可愛らしさ(前書き)

我が家の猫、一匹目の紹介です。

1-1 桃色の可愛らしさ

みいちゃん（ ） 黒、茶、白の三毛猫さん

2007年3月26日生まれ（勝手に制定）

2008年11月17日に会いました。

2010年1月16日に別れるまでの1年2か月、425日間、一緒に過ごしました。

享年2歳10か月。

いちばんはじめていつしよに暮らした猫さんです。

この子ほど猫可愛がりできる子は後にも先にもいないと思います。

優しくて、かわいくて、強くて。

すぐケンカにまけてくるももちゃんのために、いつも近所のボス猫を倒しに行っていました。

自分より1.5倍も大きいというのに、怪我ひとつせずに戻ってきたね。

近所のほかの猫は絶対に受け入れなかったのに、ももちゃんだけにはとっても甘かったね。

自分のご飯ぜんぶあげちゃったり、おんなじベッドで寝てたり。

ほんと、ももちゃんのお姉ちゃんみたいだったね。

二匹は兄弟か！？という疑惑も持ち上がってました。

二人でいろんな時間を過ごしました。

バツ狩りに走っていた冬。

誕生日を迎えた春。

いつもとちがう夏休みの朝。
出会った秋の日。

どれも楽しく、きらきら輝いています。

ほかの2匹と違って形あるものは残していきませんでした。が、いまもずっとそばにいますね。

桜が似合うみいちゃん、あなたへ。

1 - 2 爽やかな水色で（前書き）

我が家の猫、2匹目の紹介です。

1 - 2 爽やかな水色で

ももちゃん（ ） しましまの茶トラ猫さん

2006年7月20日生まれ（勝手に制定）

出会った日は不詳。

2011年5月21日に別れるまでのおよそ2年と何か月か、一緒に過ごしました。

享年4歳10か月。

いつ会ったかは、ごめんなさい、覚えてません。

何故かというと、ももとは近所の猫さんでした。

が、みいちゃんに会いに来るようになり、いつのまにかうちに住みついていたのであります。

いつのまにか家族になっていましたが、最終的には首輪まで付けられ、うちの中に入ることを許された、ある意味最強な猫です。

ふすまと壁を傷だらけにし、家じゅうをひっかきまわすだけひっかきまわして、あなたはいついていました。あなたの影が、いたるところに残っています。

ちいちゃんのこと、初めは嫌がってましたが、仲良くしてくれてありがとうございます。

家族を知らないちいちゃんに、お父さんのような、お兄ちゃんのような、そんな存在になっていましたね。

みいちゃんとは、逢えましたか？

あなたはいつも、みいちゃんに守ってもらわなくてはなりませんから。

もうひとつだけ。

どうか、ちいちゃんとみいちゃんが仲良くできるよう、お願いします。

みいちゃんは、気難しいお姫様ですからね。

あなたが残っていた首輪は、あなたが旅立つてからずっと、制服のポケットの中です。

ときどき、鈴がなると、思わずあなたの姿を探してしまいます。水色の首輪は、あなたによく似合っていました。

青い空が似合うももちゃん、あなたへ。

1 - 3 夕暮れを思わせる橙色（前書き）

我が家の猫、3匹目の紹介です。

1-3 夕暮れを思わせる橙色

ちいちゃん（ ） 黒、茶、白の三毛猫さん

2010年9月12日生まれ（勝手に制定）

2010年11月4日に会いました。

2011年1月6日に別れるまでの2か月、63日間、一緒に過ごしました。

享年3か月。

とてもちいさなちいさな猫さんでした。

いつもちよろちよろ動き回り、ももちゃんに数々のいたずらを教え込んだ張本人です。

ニンゲンのゴハンはおいしいこと。

テーブルの上で寝ると気持ちいいこと。

とりあえず走り回ること。

一緒に暮らした時間はいちばん短かったのですが、ハプニングを起こした回数は一番多かったですね。

ラッキョウ漬けの瓶を覗いて倒して、体中らっきょうまみれになったり、

学校に持っていくお弁当をいつの間にか食べていたり、
家中のゴムというものをすべて噛みちぎって。

ももちゃんの真似なのかなんなのか、成猫用ドライフードしか食べ
てくれませんでした。

フード皿に体ごと入って食べる姿はともかわいらしかったです。

あなたのいた痕が、あちこち残っています。

片方の耳が噛みちぎられたネズミのおもちゃも、そのまま。

大きくなった姿をいつか、見せて下さい。

光る秋の夕日に佇んでいたちいちゃん、あなたへ。

2 - 1 貴女だけに捧げた詩 (みいちゃん)

わたしはいま、歌を歌っています。

そんなとき、いつもあなたを思い出します。

よく、あなたを膝の上に乗せて、歌を歌いましたね。

歌ったときの空の色も、ちゃんと覚えています。

いつも、視線の先にはあなたがいる気がするのです。

じっと座っていたあなたは、なにを思っていましたか？

ちゃんと受け取ってくれましたか？

もし聞いていたなら、あなたは - - - - -

開幕ベルが鳴り響き、ゆっくりと幕が上がる。

客席のむこうに、あなたがいるようにみえて、ふと微笑む。

いま、見ていてくれますか？

いま、聞いていてくれますか？

この歌を、あなたに捧げます。

2・2 君のいない部屋が酷くさびしいから（ちいちゃん）

夜、あなたとわたしはいつしよに寝ましたね。

わたしの枕の右側は、あなたの特等席でした。枕は1・5cmくらいの毛が生えていましたが、あなたはいつも吸っていました。

お母さんと寝ているつもりだったのでしょうか。あなたにとってもわたしはお母さんになれていましたか？

毎晩毎晩いつしよに寝ていましたから、あなたがいなくなっただけでも、枕の右側をあげる癖がついてしまったのではないですか。

あなたとは2か月ほどしか過あかしごしませんでした。確かに、「此処にいた跡」を残していきました。

これもそのひとつですね。

誰も隣にいない夜は、思いのほかさびしいんですよ。

あなたののどを鳴らす音がまだ、耳に焼き付いています。

2・3 そこが君の可愛いところ（みいちゃん）

みいちゃんには、野良猫の心も、ほんの少し残っていました。

だからでしょうが、わたしや家族以外のだれかに懐くことは滅多にありませんでしたね。

誰にも言ったことはありませんが、実はそれがちょっと嬉しかったりしました。

頼りにされている、気持ち。

所謂“ツンデレ”なみいちゃんでした。

ふたりきりになったとき、あなたがみせる仕草や動作は子猫。フミフミして膝の上で眠りにつくあなたが、可愛くて可愛

くて仕方なくて、ぎゅっと抱きしめたくなるのを我慢していたことも、昨日のことのように覚えています。

わたしはたぶんみいちゃんに100回くらい“可愛い”って言ったと思います。

ツンデレというのは、二次元では良くても現実ではあまり良く思われないかもしれません。

でも、そこがみいちゃんの可愛いところ。

あなたの遠まわしな優しさと甘え下手なところ、可愛くて可愛くて大好きです。

また会つときは、またいっぱい甘えてください。

2-4 此処から見える桜が咲く頃には（みいちゃん）

みいちゃん。

突然ですが、あなたには春が似合うと思います。だから、あなたは3月うまれのような気がしてました。

2009年3月26日。

あなたの誕生日のお祝いをしたのは、たった一度だけでしたが、あなたが虹の橋に旅立ってから、私の中では変わらず、年を重ねています。

来年の3月26日には、あなたは五歳になりますね。

此処から見える桜が咲く頃には、記憶の中のあなたよりもっと大きくなっていることでしょう。

いつか姿を見せてください。

みいちゃんが年をとっても、ずっと大好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4207v/>

たったひとりのあなたへ

2011年10月5日22時34分発行